百眼百考会議プラス「ワークショップ」まとめ　　2016 年 12 月 13 日

１．はじめに

三木町まち・ひと・しごと総合戦略「まんで願いきいきタウン構想」の第 1 の構想である「（仮称）まんで願いきいきパーク」計画の実現にむけて、その目的に即した場のあり方、施設機能のあり方を探るため、百願百考会議プラス会議の中に分科会を設けた。

分科会では、3回のワークショップをもって、アイディア、提案を出し合う中で、他に類をみない、斬新で時代の求めに合致し、三木町の価値を高める場とする基本原則を確かめつつ、できる限り具体性のある施設の提案に努めたものである。

２．「いきいきパーク」の目標、役割

この施設が当初のねらいを達成するために、どのような場であるべきかという施設づくりの基本的な目標、施設が果たすべき役割をまず整理した上で、それを指針として具体的な内容を検討するために、始めに押さえておきたいポイントは、以下のように取りまとめられると考えた。

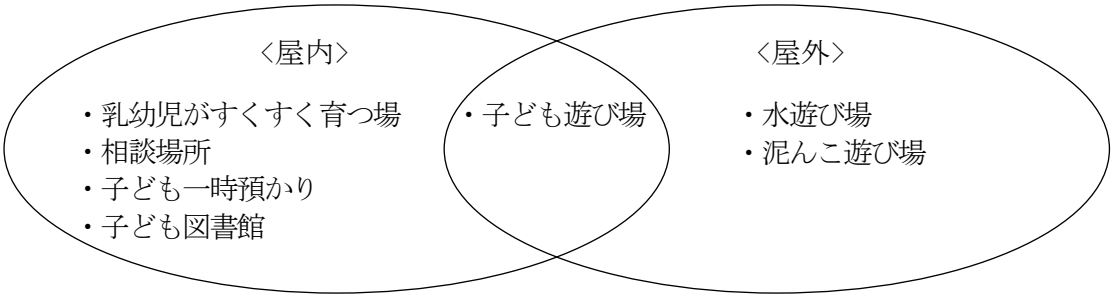
(1)既設施設と重複しない、独自の新しい機能を発揮できる場とする。
(2)子どもと共に、シニア含む多世代が集まり、利用する各世代向けにバランスのとれた場とする。
(3)屋内空間だけではなく、屋外空間を多目的に活用できるようにする。
(4)施設計画・整備は行政が主に担い、企画・活用・運営は住民参加・協働を基本とする。
(5)使いながら育てる施設とするため、自由度の高い空間からスタートする考え方を取り入れる。

３．独自の新しい機能とするための方針

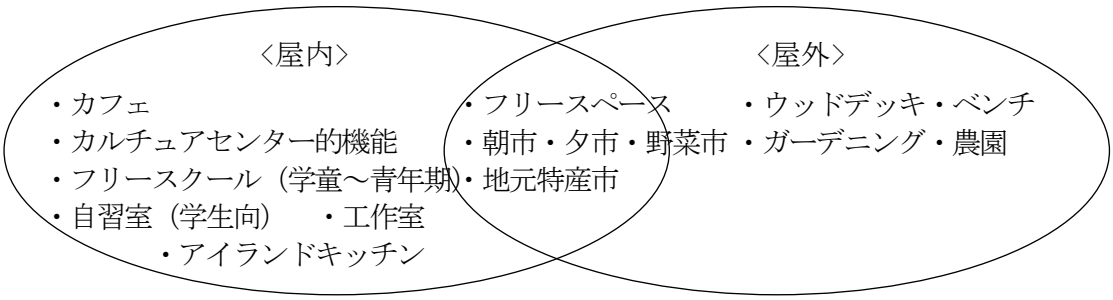
町内には既に一見して類似の施設とされるものがあることを視野に入れると、「単なるハコモノ」としての捉え方ではなく、既存施設とも連携しそれらが一層生かされるためにも、今までにはない、そして将来の三木町に必要とされる機能のあり方の基本となる方向性について検討を加え、「多世代交流」「自治・コミュニティ」「センター機能」をキーワードにする方針の提案に至った。

(1)子どもからお年寄りまで多様な世代が利用することで、既存施設にはない多世代交流ができる場、シニアの力を生かせる場とする。
(2)住民が主体になって企画運営の担い手になる仕組みをつくることで、ここから住民の自治・コミュニティが育っていく場とする。
(3)町内の既存の施設と連動し、一体的な企画運営・情報発信によって、町内全体の施設の活性化のセンター的機能を持つ場とする。

●主に子ども向けの機能



●主に多世代向け（子ども含む）の機能



このような基本方針を踏えつつ、計画を具体化する上で特に留意したい事項についても明示しておきたい。

(1) 将来人口が減ることは避けられないことから、同時に高齢者・年少者など世代別人口構成の変化、世帯の動向を捉えつつ、その中でみんなが幸せになる取り組みとしたい。
(2) 長く三木町に居る人と団地などに住んでいる人、それぞれの子ども世代も含めて交流・対話が生まれるようにしたい。
(3) 既存の施設との違い、関係性を十分に配慮し、コミュニティバスの活用など全町の人がアクセスしやすくする工夫、脚の確保について考えたい。

４．利用する目的・要素別に施設機能の整理

以上に述べたような、目標、役割、そして新しい機能のあり方についての方針に沿って、具体的に提案された施設機能について、利用する目的・要素別に整理すると以下の通りとなる。

●「子ども・子育て支援」の要素

・相談場所
・子ども一時預かり、学童預かり
・子ども図書館
・子ども遊び場（屋内・屋外）

●「サードプレイス」の要素

・フリースペース（誰もが自由に使える場）
・カフェ　・フリースクール
・自習室　・工作室　・農園、牧場
・野菜市　・地元特産市など　・ドックラン
・つくって食べるアイランドキッチン

●「交流・コミュニケーション」の要素

・得意分野を生かすリタイヤメントコミュニティ
・婚活、生涯学習、各種教室（手芸、作法、話し方、防災、座禅、サバイバル、園芸、天体、税、金融、スマホなど）
・囲碁、将棋

●その他あるいは
他に重ねる要素

・シルバー人材センター、職業訓練
・デイサービス・ショートステイ（健常者利用含）
・保健所　・産婦人科　・休日対応の役所出張所
・獅子舞館　・貸しアトリエ
・コスメサロン（ビューティーゾーン）
・塾、各種テナント、飲食店、ツーリスト

上記の施設機能と重なる点もあるが、施設への「期待」「願望」としても多くの意見が出されたことから、ここに記録として残し、今後の計画や運営の中で生かされることを願いたい。

●いきいきパークはこんな場所であってほしい願い

・敷居が低く気軽に行ける、ふらっと寄れる場 ・会いたい人（キーマン）がいつもいるところ ・「利用者」「お客さん」であるより、自分の役目があるところ	・みんなでつくってみんなで食べる「食育」につながるところ ・「サードプレイス」の良さが生きる、行き場所のない人も集えるところ

●子どもが楽しめる様々なアイディア

・未就学児が遊べる屋内施設 ・雨の日の子どもの遊び場 ・夏休みの宿題、工作できる場所 ・お年寄りが子どもに日曜大工を教える場 ・総合学習の成果としてみんなで創る「郷土資料館」のようなところ ・マンガ図書館などリラックスしながら本に親しめるところ	・プラネタリウムのような星の観察 ・水族館の楽しみが体験できる水槽 ・すべり台など気軽な屋外遊具 ・水遊び・泥んこ遊びができる屋外 ・映画のミニ上映会など自由な企画が出来る空間 ・雨の日にも開放的なイベントができる場所

５．今後の検討課題として

「いきいきパーク」づくりは、まだ途上にあることから、この提案が生かされることを願うと共に、ここでは十分に検討しえなかったことも残されている。今の段階で気づいている主な事項は以下の通りであり、引き続き何らかの検討の場に引き継がれることを期待したい。

(1)いきいきパークの取り組みを住民みんなに伝え、盛り上げていく情報発信が大切である。
(2)使い方のアイディアはいろいろあるが、ニーズに対応して多様に、また、固定的ではなく変化していくものであり、企画・運営するしくみづくりがいる。
(3)それぞれの人のできること、してほしいことを結びつける有償ボランティアの仕組み、活動グループの繋がりづくりや人材の育成の仕組み、不用になったものを活用・交換できるような仕組みが欲しい。
(4)親しみやすく特色をだすために、まんで願用子ども獅子づくりなど「獅子のまち」らしいアピールや、「ゆるキャラ」があってもよい。
(5)住民ニーズは世代、性別、地域によって異なる。住民ニーズの集約が大切で、特に、子育て支援については、さらに当事者の意見を聞いてもらいたい。

６．まとめにかえて

この度のワークショップを通じて、短期間ながら多くの発意があり、新しい事業への期待も顕在化された。しかし、まだ、これがすべてとは言い切れないし、何よりもハードな施設と合わせてソフトな活用のあり方が問われることも明らかになった。そのため、これからも住民が自分たちのこととしてともに考え、意見が言える場が続いていくことが求められ、さらには、いきいきパークの運営の仕組みづくりには、積極的に参画していきたいと考える。